

日本放送作家協会賞

第四回

大阪・名古屋・伊勢を いちばん便利に結ぶ近鉄

近鉄 2階特急

大阪—名古屋 ノンストップ 2時間13分

ビジネス特急 毎時運転

大阪上本町発.....

名古屋ゆき ノンストップ 毎時0分
(7時0分から20時0分まで)

伊勢ゆき...名古屋連絡...毎時15分
(8時15分から21時15分まで)

宇治山田へ1時間52分
11・15・18・20時各15分は名古屋
ゆき直通 21.15は四日市・松阪止

名古屋発.....

大阪ゆき ノンストップ 毎時30分
(7時30分から20時30分まで)

伊勢ゆき...大阪連絡... 毎時45分
(7時45分から21時45分まで)

宇治山田へ1時間28分
7・10・14・19時各45分は大
阪ゆき直通 21.45は松阪ゆき



▶オール座席指定 特急券・運賃とも

大阪—名古屋 片道 750円

大阪—宇治山田 " 630円

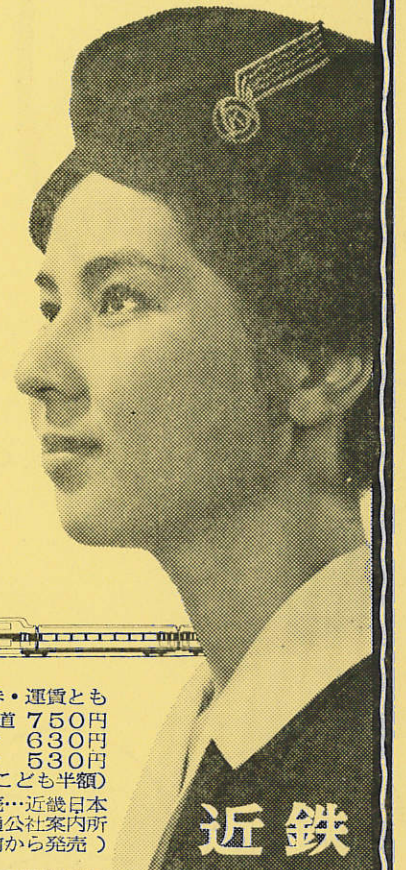
名古屋—宇治山田 " 530円

(こども半額)

特急券は21日前から発売...近畿日本

ツーリストと日本交通公社案内所

(近鉄主要駅は5日前から発売)



近鉄

第一回 受賞者

企 画 賞 「日本の素顔(NHK)」
演出者賞 せんぼんよしこ(NTV)
男性演技者賞 松村達雄
女性演技者賞 黒柳徹子
スポンサー賞 東京芝浦電気株式会社
東芝商事株式会社

T R G 賞 和田 勉(NHK)
サンキニユー賞 文化放送本社受付係
館野淑子(元東京放送受付係)

第二回 受賞者

企 画 賞 「兼高かおる世界の旅」
(TBS)
演出者賞 山田智也(ABC)
大坪都築(QR)
男性演技者賞 ハナ肇とクレイジーキャッツ



(黒柳徹子)



(池内淳子)

女性演技者賞 池内淳子
スポンサー賞 株式会社資生堂
T R G 賞 「娘と私」番組関係者
サンキニユー賞 東京新聞ラジオ・テレビ欄
(NHK)

第三回 受賞者

企 画 賞 中川忠彦(NHK)
演出者賞 田甫一郎(NHK)
橋本信也(TBS)
男性演技者賞 芦田信介
女性演技者賞 大空真弓
スポンサー賞 三共株式会社
T R G 賞 「夫婦百景」スタッフ
サンキニユー賞 東京放送劇団
ニッポン放送効果班
特別功労賞 吉田秀雄



(大空真弓)



ごあいさつ

理事長 大林 清

風薫る好季節、本年もまた日本放送作家協会賞授賞式
典を挙げる時期がやってきました。協会賞も本年は
第四回をかぞえ、年毎に社会的作用度も増して、放送界
に欠くべからざる行事になりました。私共が当協会を結
成した当初をかえりみ、その基礎の確立された証左とし
て協会賞の繁栄を想う時、まことに感慨に堪えません。
然しながら当協会の成長は、もとより放送界そのもの
の隆盛に根ざすものであります。今後とも日本放送文化
の向上発展のため、私共協会員は全力を傾注することと
この機会にお誓い致します。

本年度の協会賞は例年のことながら、当協会理事会に
於て選出された協会賞特別委員に依り、厳正に選考さ
れ、最終的授賞の決定を見ました。協会としては受賞者
各位の放送に対する秀抜なる業績と、たゆまざる努力に
衷心より敬意を表し、お祝いを申述べらるものでありま
す。

なお、協会今後の発展につきましては、皆様のご協力
に負うところ多大であります。至らぬところはご寛容を
願ひ、相変らざるご鞭撻ご激励をいただければ幸いこれ
に過ぎたるものございません。

この一年

- 38年4月 ◇社団法人認可後第2回通常総会開く。
- ◇第3回日本放送作家協会賞、8部門10者に授賞。第一ホテルで記念祝賀パーティ。
- ◇朝日講堂で協会賞記念講演会開く。
- 38年5月 ◇会長久保田万太郎氏逝去(6日)。
- 38年6月 ◇放送文化講演会、富山岐阜で開く。
- 38年7月 ◇「久保田万太郎賞」(脚本賞)設置決定。
- 38年9月 ◇CM教室第5期、放送文芸研究室第5期、それぞれ修了。
- ◇CM教室修了生で同窓会を設立。
- 38年10月 ◇第1回「大運動会」雨のため流れる。
- 38年11月 ◇北条誠、西島大両常務理事退会。石川年、江上照彦両氏新常務、大倉左夷氏、事務局担当に選出される。
- 39年1月 ◇大林理事長四支部を歴訪、支部会員と懇談
- 39年3月 ◇放送文芸研究室、CM教室とも第6期生修了。



おめでとございます

本年度の日本放送作家協会賞のうち、企画賞は大映テレビ室に贈呈することになりました。適切な線と幸いです。

大映テレビ室は、昨年中に、人間の条件、球形の荒野、せんせい、図々しい奴、赤いダイヤ、そろりと参ろう、等の連続テレビ映画を制作しましたが、この中、せんせい、以外はいわゆる大型テレビ映画と称される一時間ものの連続テレビ映画であり、三カ月から六カ月の長期にわたって放映されたものです。

しかも、そろりと参ろう、だけがやや期待に反した結果となつた以外は、すべて、高い視聴率を上げ、好評のうちに終了しています。根拠ある見とおしと、大胆な冒険心が、パランスをよく混合されて、美事に結実したと云わざるを得ません。企画の成功であり、勝利です。

昨年来、一時間ものの国産テレビ映画が非

常に勢いで増加したことは、このような大映テレビ室の成功の刺激によることが大きいと見られることも出来、国産テレビ映画の量的質的向上に対して大映テレビ室の功績は著しいのです。

人間の条件を、放送局もスポンサーも未定のまま、自主制作に踏み切った大胆さ。大型喜劇路線を打ち立て、他をリードして行く見とおしのよき。企画者として充分です。

テレビ映画も、もはや、不毛の荒野ではなくなり、開拓すべき原野は少なくなったようですが、大映と云う大トラクターに乗ったテレビ室のプロデューサー諸氏が、どのような幕進ぶりを見せ、どのような土壌を切り開いてくれるか、たのしみと云っていいでしょう。

桂 一郎

ありがとうございます

大映テレビ室が企画賞をいただいたということはまことに光栄です。この栄誉は制作者だけでなく、これらの作品の制作に協力して下さった東京放送の方々を初めとし、スタッフの方々に分たねばならないと思っております。

受賞の対象になった作品の第一作である「人間の条件」を企画したのが一昨年の三月いまからちょうど二年前です。以来随分苦労しました。どうにか持ちこたえられたのはテレビ映画のバイオニアたらん、としたスタッフの意地があったからです。苦労も報いられたというものです。

テレビ映画というものがこれからのテレビ界でどういう位置を占めるのか、大変興味のある問題ですが、テレビ映画を作ることを目

的としている、私たちは一にも二にも企画第一の方針で制作をつづけて行く考えです。そして一度とは云わず、二度、三度、何度も企画賞を頂戴したいと思っております。折角ご支援ご鞭撻をお願いいたします。

ありがとうございます。

大映テレビ室 武田昌夫

昭和33年10月創設。34年4月開局のフジTVに「海の非常線」など一連の30分番組を提供。37年4月より自主制作のワイド番組「人間の条件」および「せんせい」をTBSに提供、ひきつづき「球形の荒野」「図々しい奴」「赤いダイヤ」「そろりと参ろう」「あひる飛びなさい」などを企画制作。



演出者賞 (テレビ部門)

八橋 卓 (NET)



おめでとございます

彼のことを、八橋卓ではなく、八橋タフだと言った人がいました。彼は全くタフです。学生時代ラグビーできたえた体で、実によくネバッテ仕事をします。開局当時、ほとんど家に帰らず仕事に没頭していた彼には、感心を通り越して少々アキレてしまうほどでした。

「判決」が始まってからは、裁判所とスタジオの間をどれくらい往復したことか、彼自身記憶していません。ではないでしょうか。裁判所のある日比谷あたりで、「なんだかヤッちゃんに会いそうだな……」と思いつきながら歩いてみると、パツタリ会うから不思議です。「八橋さんは裁判所の職員だと言っても通るんじゃないんですか」これは裁判所の人の言葉です。資料集めの段階ですらこれぐらいネバルのですから、演出の段階でのネバリは言わずもなです。実は、私も、脚本の直し

で、大晦日にネバラレ、それでお仕舞かと思っていたら元日にもまたネバラレて、いささか音上げたことがあります。また、彼のように、作品で主張したいことを主張する演出家も、テレビには少ないのではないのでしょうか。

「一本一本精いっぱいやるよりなんナ」……彼が言った言葉です。彼の作品に対する姿勢を直截に現わした言葉だと思います。そして、それが、「判決」を支えている一番大きな力だと思います。

八橋さんは、去年も協会賞の有力候補だったのだし、今度の受賞は当然のことでしょう。

今後、ますますタフに、ますますいい仕事をしてくださるよう、心から期待しています。

寺島アキ子

ありがとうございます

現在のテレビドラマの演出は、その極端な制約の故に、放送されたもの全てについて完璧であるということには程遠いものがあります。もちろんこの状態に我々は決して満足している訳ではなく、少しづつ改善への努力は怠っていないつもりであります。このような状況の中で、演出の賞を頂くということは、実は大変な栄光であります。これは私一人の賞というよりも長い間『判決』という番組を作ってきたことに対する努力賞の意味であろうと考えております。放送作家協会の賞だから云うわけではありませんが、『判決』に集まって下さった作家の方々の、常識をこえた努力にはいつも頭が下る思いです。この作家群を中心によき出演者とスタッフの粒がそろったことが、ここまで続いて来た大きな原因と思われまます。それと同時にどうし



ても忘れてはならぬのは、真面目な一般視聴者の方々の熱意であります。テレビの持つ大きな社会的役割の重要性について、また時にはくすれそうになる我々に対して、どれだけ力をもってその人たちの投書や発言が、支えになってくれたことか……。今後共にこの受賞の栄を真に価値あらしめるべく努力する所存故、皆様方によりよき御指導をお願いする次第です。

八橋 卓

昭和二年五月兵庫県西宮市生れ。大阪北野中学卒、関西学院中退。昭和29年俳優座俳優養成所を出て33年開局前のNETに入社、テレビドラマの演出に当り、現在制作局演出第一課課長待遇チーフディレクター。演出作品には「指名手配」「かあちゃんしぐのいやだ」「判決」などがある。

演出者賞 (ラジオ部門)

山口 淳 (NHK)



おめでとうございます

国家が黄綬褒章を贈って、その業績を表彰したほどの山口淳さんである。いまさらこゝで言挙げする必要もないのだが、これだけは言っておきたい。テレビジョンの歴史も十年をけみしつある今日この頃、ラジオドラマの再認識と新しい確立があらためて叫ばれ始めた現段階において、山口さんのようなオーソドックスな演出家の存在は、じつに大きくまた意義ふかいことである。

山口さんは、これも斯界の大先達なる和田精氏の薫陶のもと、築地小劇場の音響効果から、PCL映画(東宝の前身)を経てBK(NHK大阪)入りをした方である。つまりラジオドラマ造りの師匠は、和田精氏というわけなのだが、この間、新交響楽団(N響の前身)にも何年が在籍したことを思えば、ラジオドラマに緊要不可欠であるところの『音』と『音楽』に、山口さんがいかにつねにすばらしい感覚を鋭ぎすましているか、思い半にすぎることがあろう。

芸術祭賞に輝いた数々の名演出作品もさる

ことながら、戦後の芸術不毛時代における長期シリーズ「世界の名作」のプロデュースも忘れることはできない。それにしても去年は、山口さん、若者もおどろくほどのハッスルぶりだった。この『ふたば』のブロンズ像を愛撫することによつて、今年はまだきつと、さらにさらに青春をとり戻されることであろうが、どうか、じゅうぶんに御自愛の上で……とお願ひしておきたい。

伊馬 春部

ありがとうございます

演出者賞というおほめを戴いて、ありがとうございます。

今は春、ほんわかとした心が、このたびの受賞で、いやが上にも高揚いたします。「歌の翼」ではありませんが、何かこう翼の生えた気持で私のほほも紅潮し、自由に飛びまわれそうです。

わりと長命のおかげで、これまでも大ぜいの作家諸先生方と、放送の仕事を通しておつき合ひさせて戴き、永年にわたり御協力をたまわりましたが、この事がスタジオを嚆々として飛びまわっている現在の、私の育ての親であるとしみじみ思っております。

演出の仕事がなり立つのは、先ず第一に作品あればこそです。それから出演者の諸兄姉並にスタッフみなさんの御協力が今日の実りとなりました。

みなさん、ありがとうございます。

山口 淳

明治38年3月、静岡県生れ。大正10年、東洋音楽学校に籍をおく。大正13年築地小劇場に入る。この頃N響の前身、新交響楽団の楽員となる。その後PCLを経て昭和12年大阪中央放送局入社、ラジオドラマの演出を手がけて今日に至る。昭和28年第8回芸術祭に「銅山」で演出個人賞。昭和38年黄綬褒章を受賞。

藤田まこと



おめでとございます

正直に云って藤田まことは決してうまい役者ではない。併し真面目で熱心で、出来ようが出来まいが与えられた役に体当たりして行く役者である。(強いて例を求めれば、戦後「銀嶺の果て」や「酔いどれ天使」でスクリーンに登場したころの三船敏郎に似ていると云えよう)

従って私は今回の彼の受賞を「真剣な演技に対する賞讃」であり「今後の飛躍に対する期待」であると解釈したい。その意味では現在テレビで活躍している若手タレント中彼ほど「未来の大器化」を思わせるタレントはいない。併し同時に売れっ子の中で彼ほど演技に計算がなくて不器用なタレントも少ないのである。

とすると当然必要なのは、彼を三船敏郎にしてやる「テレビ界の黒沢明」的な名ディレクターの出現であり、素直にその人の指導に従う「売れっ子藤田の謙虚さ」である。もしその過程を経なければ、あたら大器は永久に晩成もせずに終るであろう。

私が一番恐れるのは、今回の演技賞受賞によって、彼が「俺はうまいのだ」と錯覚し、小手先だけの技巧を弄する所謂「器用なタレント」に墮落してしまうことである。

藤田まことよ、道は遠く険しいのだ。今日のこの感激を明日の活動力として、一步一步を大切に、よく頂上を極めてくれ。

香川登志緒

ありがとうございます

男優演技者賞を今回私が受賞出来た事は、非常に光榮に思います。

受賞の対象になった作品は昨年度の芸術祭参加作品「マーメイド号」とのことでした。喜劇畑の私が出てには少し重荷な作品だったので文化放送島地ディレクター並びに日頃お世話になっている森光子さんの力強い励ましの言葉について夢中に正面から体当たり致しました。

ただ熱演出来て良かったというのが、仕事が終わった後のいつわらぬ心境でした。今後は健康に気をつけて与えられた仕事を好演出来る俳優になりたいと思います。

今後共よろしく後指導の程をお願い致します。

藤田まこと

昭和8年東京生れ。本名原田真。京都府堀川高校中退、この前後から芸能界入りした。レギュラー初出演はABC「びっくり捕物帖」その後テレビ、ラジオの製薬会社のCMで当る。現在「てなもんや三度笠」「スチャラカ社員」(ABC)「法善寺横丁」(NHK)「No.1ショー」(NTV)など出演中。「マーメイド号」(文化)は38年度芸術祭賞を受賞した。



「スチャラカ社員」(ABC)



「てなもんや三度笠」(ABC)

女性演技者賞

中村メイコ



おめでとうございます

中村メイコくんが、賞を貰うとき彼女がどんな風にして、その賞を受取るだろうか。学校の式で、賞められた話をきかない彼女だから、昔の食パン型の顔に、涙するかもしれないと思った。しかし、そうでもあるまいと思った。わざと、さりげなく、行儀のよさで、煙にまくだろうかとも思う。

ともかく彼女のことだ。あれこれ考えて、一步下って、一つお辞儀をするといった計画などなしに、出かけていくにちがいない。会場へはいってくるなり、その場に居合わせる人の、人相風態、智能指数を、ぼくから見えない所についている吸盤で察知する。するともう、賞を貰うその場のふんいきの中に、自然と身体をおけるのだと思う。これが彼女の例のアドリブ的生態である。

プランを練る人でもなし、練ったからといって、その通りになる人でもない。アドリブと云えば作者にとつては迷惑、役者にとつてはめでたい才能の一つである。まじめな話、今までも彼女は多くの賞を貰っているのだと思う。貰っていないければ妙な話である。

だが、こんどの賞は、放送という、彼女を幼児の頃から培った畑から出るのであるからおろそかにはできない——とは、ぼくより十数年の先達、伊馬春部氏の言でもあり、またぼくも賛成である。

筒井 敬介

ありがとうございます

ありがとうございます。なにより、このゴホービには『現場』のニオイがして……嬉しくなりません。

今年はどういうわけか年の始めから、めまぐるしく『見合した女』で水上勉サンが「生理的に男がうけられない、なんともイヤな女……」と説明なさる三十四、五歳の醜女を、そして『夫婦百景』で女落語家を、いま流行のイキな悪女を『スター劇場』で、そしてまた『判決』では自分のオッパイで赤ちゃんを窒息死させた貧しい母親を……というふうに、ひどくイロイロな女をやらせていただくので、正直なところ、役者としてはなんだかたのしくて、ならなかったのです。

——二歳半から、やがて三十歳になろうとしているいま、この『二十五年』という時間のながれに、そのわりにちっとも『いいおしごと』をしていないようで、少々オタオタしてしまふのですけれど……「いい仕事をしろヨ」とダンナサマにけしかけられながら、明

日からまた、あいかわらずのんびりと、あたえられたおしごとを、いとおしんでまいります。きめこまかに……ていねいに……と、コレがあたくしのささやかなモットーのようなモノでございます。

中村メイコ

昭和5年5月東京生れ。父は作家中村正常。義務教育終了後は専ら家庭教育を受ける。2歳8カ月で「江戸っ子健ちゃん」のフクちゃん役でPCLE映画にデビュー。4歳で豊田四郎監督「小鳥の春」に出演。少女期「ママ横を向いて」を自作自演。またラジオ「おねえさんといっしょ」で一人七役を演じた。TBS「パパ行っちゃった」NET「メイコのごめん遊ばせ」は開局以来続いている。

古今亭今輔



おめでとびげんごます

昭和二十四年の春頃、上野鈴木亭で日曜毎に午前中だけ「青年落語努力会」と言うのをやっていた。

入場料は金十円也。当時でも南京豆一袋のネダンであった。まだ二ツ目になる前の米丸、伸治、柳昇、寿輔(今の円右)、小金治、小円馬、春楽(今の笑三)の連中が、鈴木の本主人の好意で、タダで小屋を貸してもらったの勉強会であったが、客席は全くのマバラで、上野の地下道の浮浪人達が、十円で昼寝に来ている姿が大部分であった、と言っても満更のウソではない。出演者の方が客よりも人数が多い日もあった。

後援会を作るだけのチカラはないが、応援団にはなるう、と名乗りを上げたのが私であるが、数ある大看板のうちで、この人達の免倒を見ていたのが、今輔さんであったのである。

それ以来の知己であるが、どちらもイコチなところがあるのが共通点であるセイか、こ

のくらい気の合う友人も珍らしい。好きな人のことで話し合った事は記憶にはないが、嫌いなやつ、厭なやつと言うのが、全く同じと言う点などでは実に気があう。その一つ一つを挙げてここに書きたいぐらいだが、これは二人の間のプライベートとして秘めておく。

今輔さんに限らず、この世界の人はみんな人情に厚いが、今は亡い先輩とか恩人の遺族に対しても、誰にも言わず、物心両面で尽している例を一つならず三つも四つも偶然の機会に知って、大いに己れを顧みることがある。

桂小文治師匠のコトバによると、「今輔は特級酒が飲めるようになったら、又ヒトのためにカネ使いよって焼酎に逆もどりや」だ、そうである。

その焼酎?も先頃からやめて、もっぱら野菜をジュースにかけて飲んでいるのは、出来

るだけ健康で永く高座をつとめ、新作のためにつくすと、決めたからだそうである。

落語を古典の新作のと、知ったかぶりであるが、数ある大看板のうちで、この人達の免倒を見ていたのが、今輔さんであったのである。

後援会を作るだけのチカラはないが、応援団にはなるう、と名乗りを上げたのが私であるが、数ある大看板のうちで、この人達の免倒を見ていたのが、今輔さんであったのである。

玉川一郎

所謂「古典」は殖えることがない。それなのにやる人間は何十人もいる。それでは商売の食い上げではないか!!

どしどし「新作」をとり上げ、職域を広げる。これが「新作派」の手柄だと思ふ。

今度、放送演芸に功労ありとして、日本放送作家協会から新しく設けられた大衆芸能賞を授賞されたのは、まことに、その時と人を得たものと思ひ、ここにお祝いの辞を述べる次第である。

ありがとうございます

日本作家協会より、大衆演芸賞を頂くことになりました、身にあまる光栄と感激致しております。

近年NHKで新作に力を入れてくださいまして、新作落語台本研究会や新作落語懸賞募集等々、そのうえ日本放送作家協会の先生方や、放送演芸作家クラブ、落語漫才作家長屋の先生方が、競って御創作くださいましたので、私達は大工の棟梁が青写真を貰ったように、一生懸命努力して棟上げを楽しんでおります。次から次と青写真を頂きますので一日も休みなく働き続けることの出来たのは、先生方のお陰と喜んでおります。ただ棟上げを急いで話芸が伴わないのが作者に申し訳なく、ひげめを感じます、それにこのたびの受賞、嬉しさと恥しさと相なればしております。

今年で落語生活五十年、六十六歳、やっぱ

り嬉しさの方が九分、有難うございます。

古今亭今輔

明治31年6月群馬県生れ。17歳のとき初代三遊亭円右の門に入り、その後柳家小さん門下、桂小文治門下と移り、昭和6年桂米丸の名を継ぐ。昭和16年5代目古今亭今輔を襲名。大正12年頃より新作を手がけ今日までこの道のパイオニアとして努力。この間柳家金語楼師の激励と指導を得て今日を築く。「おばあさん」シリーズが好評。

CM 作品賞

セイコー企業CFの 制作スタッフ

ありがとうございます

株式会社電通
ラジオ・テレビ企画制作部

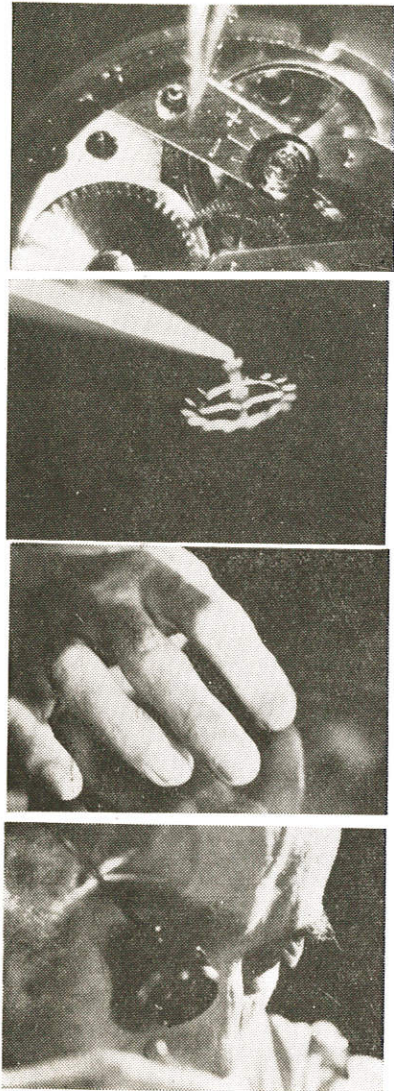


当然の事でしょうが、私たちは常に消費者の側に立った仕事という事を念頭においております。それは、私たちの仕事は消費者、或いは見る人々に対して何んらかの利益を与えなければいけないという事ではないかと思えます。それが即ち、スポンサーに対して我々の最も大きなサービスになると考えるからです。スポンサーだけが喜ぶ、スポンサーの為にもならない数々の作品、特に従来の企業広告にはそういう面が多かったと思います。

今回の私たちの仕事は、そういう意味で企

業広告についての考え方を私たちなりに一歩進めてみたつもりです。大きな工場も、特殊な機械も、大きな数字も出て来ません。出てくるのは43年間、時計だけに打ちこんで来た一人の平凡な(或る意味では大変平凡な)老人だけです。でも私たちは、その老人の語りかけが、従来の企業広告のそれより力強く消費者の心を掴む事を信じていました。それが今回の受費で証明された事になり、より以上の嬉しい受賞になったわけです。

どうもありがとうございました。



CM 作品賞

スズキ自動車工業CFの 制作スタッフ

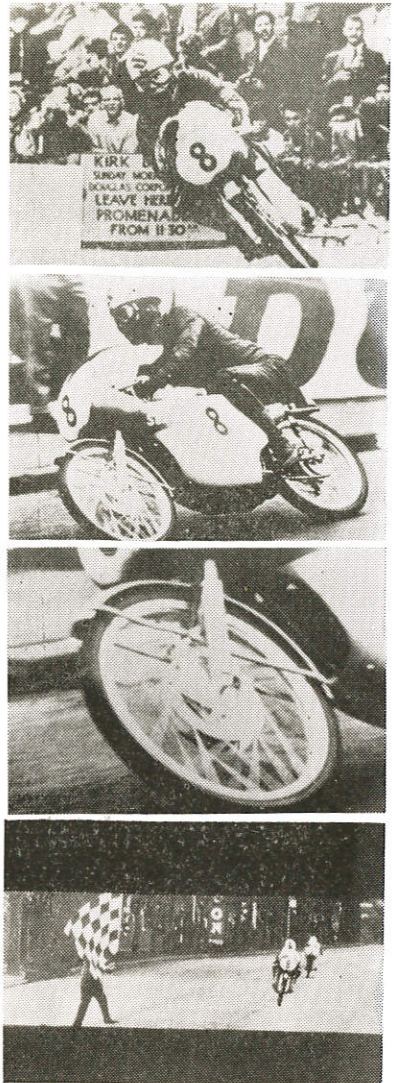
ありがとうございます

株式会社博報堂
企画制作部



価値ある製品に挑戦して果しなく走り続けるスズキ——今度の作品で私達は世界グランプリ・レースなるものが単にレースのためのレースではなく、レースを目指して開発された新しいメカニクが一般の市販車にも生かされているということ。そしてまた、消費者の立場にたった本当の意味での価値ある製品を作るためにスズキはこれからも世界の王座を目指して走り続けるのだということをやッピールしようとしました。

幸いにもこの作品が光栄ある受賞の対象となり、これ以上の喜びはありません。このたびの受賞にあたって他のメーカーには真似のできない『世界GPレース優勝』という全くユニークな素材を提供してくれたスズキという企業に対して深い感謝の意を表したいと思います。なお、この作品にインサートされたレースのフィルムはスズキの篠田宣伝課長が自ら撮影されたものであることをお伝え致します。



近畿日本鉄道株式会社



おめでとうございます

主として制作関係者の話を総合すると次のようなことになる。

「近鉄さん」は一口に言って「おおらかなスポンサー」です。もちろん「聴視率」に対してはいまのところそれ以外に数字的拠点がないので数字の高下に敏感でないスポンサーはないけれども、率がいいから作品がいいというような考え方や取扱いがないのが何よりです。作品内容に就ても、野卑なものやふざけたものは困るといって一本の線はあっても、作品の内容個々に涉って、こまかい指示や注文がないのも、年間の作品が大きく粒が揃って行く一つの原因でもあります。

しかもこのような理解度の深さは、更に近鉄さんの宣伝担当関係者の皆さんの熱意によって更に裏打ちされており、直接の担当者で

あるI宣伝部長さんの「制作」に対するよき推挽と、それをカバーする形のS業務局長さんの包容力がよい結果を生んだと思います。以上のように、文章化すると単なる褒め言葉のようになってしまいが、聞いていて成程と思われる具体的な話も沢山あった。

考えてみると、年間粒の揃った作品を提供するということは、制作局や作者側の苦勞もさることながら、創る側よりも創らせる側つまり受入れる側にこそより多くの苦勞がつきまとうのではあるまいか。

「近鉄さん」は数のすくないスポンサーの中の「大」という字のほんとうの具現者であると思う。

茂木草介

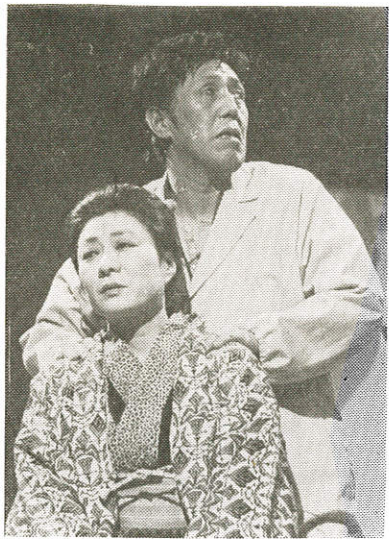
ありがとうございます

このたび当社提供のテレビ番組が日本放送作家協会からスポンサー賞をいただきましたことは、製作放送関係およびタレントの方々をはじめ、聴視者の皆様方の一方ならぬご努力と、ご支援の賜物でありまして誠に感謝に堪えません。

ご承知のように、当社は鉄道を中心とする交通観光事業を営んでおりますので、その公共性にかんがみまして、放送宣伝活動においても常に社会に善意を送り、世間に明るい灯をともしたいと念願し、腐心している次第であります。

受賞の対象となりましたテレビ番組「近鉄金曜劇場」は、このような点に特に留意して企画し、「格調高いドラマ」を目標に36年秋から全国9局ネットで放送を開始し、すでに130回を超えました。

この間36年には芸術祭文部大臣賞(オロロン(鳥)、37年と38年にはそれぞれ芸術祭奨励賞(若もの：努力の場合・正塚の婆さん)と3年連続受賞しましたが、さらに今回の受賞により、この番組に一層の光彩を添えることができました。



近鉄金曜劇場 「盲目」(TBS)

またテレビ番組「真珠の宝箱」は、当社が日本文化発祥の地、大和路・伊勢路を事業基盤としておりますところから、これにふさわしい番組を提供すべく、34年春以来、東京・大阪・名古屋の3地区において放送して参りまして、これもすでに128回以上の実績を積み上げております。

テーマを当社沿線関係の史跡・名所・美術工芸等に絞る、講師には志賀直哉先生、バーナード・リーチ先生をはじめ第一級の文化人にお願ひするなど工夫をこらしており、文化の香り高いユニークな番組として、広く皆様のご共感を得ているものと存じます。

私はこのたびの受賞をありがたくお受けしこれを機会に番組を通じて社会の美化と文化の向上に一層の努力をいたしたいと存じます。皆様におかれましても、当社の番組につきましまして、今後とも格別のご指導とご援助を賜りますよう、お願い申し上げます。

近畿日本鉄道株式会社社長

佐伯 勇

本社大阪市天王寺区。社長佐伯勇。資本金160億円。輸送、観光事業で傍系110社におよぶ。TVは「近鉄金曜劇場」「真珠の宝箱」、ラジオは主にニュース。芸術祭には3年連続奨励賞を受賞している。36年「オロロン(鳥)」37年「わかもの」38年「正塚の婆さん」

梅本重信



おめでとーございます

梅本さんの今までは、全くのところドラマへの献身だったといってもよい。それは舞台からはじまってラジオを経テレビに至っているが、殊にテレビに於ては、その草創期から現在まで、ひたすらドラマ作りに激しい情熱を燃やして倦むことがなかった。この十カ年余の業績は、演出者がその身で綴った一編のテレビドラマの発展史ともいえようか。

梅本さんは温厚な君子人だが、芯の強い人という定評がある。芸術家としてはそうなくてはいけないわけだが、それが、世間にままある、あくまで自我に凝り固って他を顧みないという独善型でないことはもちろんである。反対に、梅本さんの制作の基本的態度は、いんな傾向の作者それぞれの個性をできるだけ出す、ということらしい。だから、梅本さ

んと仕事をする場合には、作者は自分を自由に愉しくのびしながら、それでいて、出来上がった多くの作品には梅本さんらしい特長が明らかに一貫しているのだから、ふしぎである。

梅本さんは今年の一月で定年に達せられたが、引続きNHKに在って、おもに単発ドラマの制作に当たられると仄聞する。意気すこぶる軒昂、むしろこれからの感じである。この受賞がちょうど一区切りの折に重なって、梅本さんのこれまでの仕事を高く評価すると共に、将来いっそうの活躍への拍車ともなれば、誠に喜ばしい。

梅本さん、ほんとうにおめでとー。

江上照彦

ありがとうございます

どちらかと云えば私は、はにかみやで、人前に出ることが億怯で、派手な仕事より地道の持主なのに、今度のような派手な賞を頂きますことは、たとえに皆様方の影ながらのお心づかいと、心から感謝しています。

人によって違うでしょうが、私の場合、演出家の仕事というものは、元々緑の下の力持ちで、表面に出るものではなく、俳優や作品の影にあって作者の意図を生かし、作品の主題を自分のものに消化し、自分の解釈を加えて同化し、より作品を豊かに、香気を高めることだと思っておりますので、誰よりも作者と作品を尊重いたします。演出者はなくても作品は存在しますが、作品がなくては演出者は存在しないわけですから、常に作品あつての演出だと思っております。その意味で、作品は常になが師であり、演出技術にヒントを与えてくれる泉であり、伴侶であると考えております。これからもその気持で作品の意図

に奉仕したいと思っておりますので、よろしく御願いたします。

梅本重信

明治41年2月東京生れ。日大芸術学部演劇科卒業。学生時代友田恭助・田村秋子主宰の築地座研究生となる。PCLなどを経て昭和16年BKの懸賞ラジオドラマに入選、BK文芸部に入る。昭和27年ラジオドラマ「ぼたもち」で芸術祭賞30年「猷の行方」で芸術祭演出個人賞。33年「ある町のある出来事」で芸術祭団体奨励賞。

「チロリン村とクルミの木」関係者一同

(劇団「やまいも」他)



おめでとーございます

昭和31年4月に始まった「チロリン村とクルミの木」が、九年目の春を迎え、四月三日のサヨナラ放送で、いちおう、NHKテレビからスガタを消すことになりました。この九年目の春に協会の第4回「サンキュー賞」が「チロリン村」のグループ一同に贈られると聞いて、私はたいへんに嬉しくなって、そわそわとやたらに家の中を歩きまわりました。よかったよかった、いいいな、ひとり、やたらにニコニコしながら……。

九年の間、いっしょに頑張ってくれた「劇団やまいも」の人形演技のグループ、その人形に楽しい「声のいのち」を吹きこんでくれた32名の俳優諸君のグループ、そして、音楽の宇野誠一郎君を始め番組制作のスタッフ諸君、このチロリン村のグループの諸君に、心からサンキューと最敬礼をしなくてはならないのは、本当は私なのです。ところが、思いがけなく協会が「サンキュー賞」という素敵なゴホビを贈ってくれる事になり、私にとって、こんなに嬉しく心たのしい事はありません。サンキュー賞にありがたく脱帽しながら、協会の会費をちゃんと納めていて本当に

よかったですと思いました。

最終録音日の夜のことです。例えチロリン村の放送が終っても、これまで通りお互いに楽しく肩を組んで人間的なつながりをいつまでも続けて行こうという声、貞鳳君や黒柳君を始め俳優諸君のグループから自然発生的に提案されて、出演俳優諸君の殆んど全員と宇野君や私など約35名の「ちろりん会」というグループが新しく生まれました。この度の協会の「サンキュー賞」は、この「ちろりん会」のグループにとっても、「やまいも」の人形演技グループにとっても、これからの仕事の上で、ひとつの「心の旗じるし」になるものにちがいないと私は信じています。

チロリン村の可愛いコドモ達や野菜や果物たち住民一同が、村端れの丘の平和の鐘を鳴らしながら、グループ諸君の受賞に心からの盛大な拍手を送っています。そして、私も……！
グループの諸君、よかったですね！おめでとー！

恒松 恭助

ありがとうございます

このたび、放送作家協会よりサンキュー賞を頂戴するにあたりまして、満八年間けこみのおかげで黙々と、人形の操作に専心してまいりました私たち劇団員一同、感無量、喜びにたえません。

これもひとえに、企画者である田崎氏、作者の恒松氏、そしてNHKの先輩の方々の叱咤と激励のたまものであり、それに加えて優秀な声優陣の方々、それに私たちよりさらに裏において活躍してくださった技術陣、効果陣美術陣の力の結集が、私たちを長い間支えてくれたからなのです。

しかし、それにもまして忘れてはならない

ことは、日本中の視聴者がチロリン村を支持し応援してくれたことです。このことが、どんなに私たちを勇気づけてくれたことでしょう。だからこそ八年間も続いたのだと思います。

受賞に際しまして、私たちは、今のべたそれらの人々と心から叫ばずにはいられません。

「サンキュー、サンキュー、サンキューと」。

私たちはこれからも、チロリン村の精神一貫したずらな殺人や暴力をにくみ、平和と正義を愛し、私たちの村や町を建設しようとする機動的なロマンチズムを、高らかにうたいあげ、子どもたちの中へとびこんでいきたいと思います。
ほんとうにありがとうございます。

劇団やまいも代表者

藤井



日本のホテル「国際的名声」

オ リンピックをひかえて『観光ニッポン』大いに張り切っているところだが最近「日本のホテルは高すぎる」という声が目立つ外国人たちから起ってきて、『世界の名声』にもなりかねないとか……。週刊新潮に「東京情報」を連載している国籍不明の『ヘンな外人』ヤン・デンマン氏の指摘するところによれば、日本のホテルの不愉快さは「国際的不満」になっていて、静かさと安さに欠けることバリのホテルにくらべて、雲泥の差だ、ということになる。「現在、東京をはじめ日本のいたるところでホテルの建設がはやっていくが、それらのホテルは、オリンピック見物にくる人たちを泊めるためのものか、それとも単に豪華な部屋で金に糸目をつけない暮らしをしたい人たちのための施設なのか——いったいなにを目的にしているかを、わたしは聞きたいと思う」……とまことに痛烈。

ミ スター・ヤン・デンマンの『感想』に「いちやもんをつける気はさらさらないが、『日本のホテル』の安さとサービスの良さにカンゲキして羽田を飛び立った外国人の数もまた決して少なくはないことを、この際大いにPRしておくべきだろう。昨年の東京国際スポーツ大会を取材するため来日した、

イギリスのロイター通信社運動部長バーノン・モーガン氏も、そういうウレシイお客様の一人だった。

モ 「ガン記者のいう『立派なホテル』の名は『第一ホテル』……東京のホテルで感心したのは第一ホテル。部屋は少々せまいがベッド、机、電話、バス、トイレット、押し入れ、それらが合理的に配置されていて千七百円というから、約三十五シリングだ。三十五シリングでこれだけの部屋が外国のどこにあるというのだ。わたしはまったく感激しちゃったよ。第一ホテルのダイニング・ルームなどの諸設備もほかの一流ホテルと変わらない。東京にも第一ホテルのようなのがうんとあると、部屋数はとれるから観光客はたくさん収容できるし、サービスぶりには必ず喜ぶだろうね」……

外 国からのお客様からこのような「国際的な名声」を博している第一ホテルは、実は「日本のお客様に最も利用されている」ホテルでもある。全室の八割が一人室というユニークな特色、しかも『一等寝台よりも安い室料』が好評なのはもちろん、ビジネス・ホテルの名にはしない諸設備をととのえてお客様の利用をお待ちしている。

- コーヒーラウンジ/バースコットランド/世界バイキング オリソピア/大食堂(本館一階)
- バー/ヘリオス/レストラン カーナバル/一寿し(本館地階)
- 結婚式場/しろかねホール 宴会場/中華バイキング 白楽天(新館)

- 会う
- 飲む
- 食べる
- 話す
- 聞く
- 読む
- 思考する
- 執筆する

作家の生活がここにある!



東京一親しみのある
第一ホテル
 新橋駅から徒歩1分 TEL 501-4411

■昼間の客室ご利用は割引率があります / ご照会下さい (企画部 永井)

□発行 社団法人
日本放送作家協会
中央区銀座西8-10
電通西別館第4号
■(571)0882・0278

□編集 大倉左兎
安田利雄
赤木洋一

表紙 高木一栄子